

トンボ産卵へ環境再現

保護いけすにマコモやヒシ…

磐田市岩井の桶ヶ谷沼にマコモなどの水生植物を復元させようと、絶滅危惧種のベッコウトンボを増やす活動をしているNPO法人「岩井里山の会」（加藤佐登志理事長）の会員らが取り組んでいる。二十二日には腹まで泥につかり、移植作業をした。

（宮沢輝明）



泥につかりながらマコモを植える会員たち＝磐田市岩井で

マコモやタヌキモ、ヒシは、ベッコウトンボが産卵したり、すみかにしたりする。こうした水生植物が増えるとベッコウトンボの産卵や羽化が進むという。

これまでは、繁殖するアメリカザリガニからベッコウトンボのヤゴなどを守ろうと、アメリカザリガニが侵入できないように縦、横四畝、深さ四十センチほどの木製のいけすを市民の協力で設けるなどしてきた。ただいけすの中には、沼の自然

磐田・桶ヶ谷沼でNPO法人移植

の植物が生えないことから、新しい活動として始めた。

ゴム製の胴長を着用した会員五人は足場の悪い沼に入って作業をした。柄の長いすきでアシを掘り出した後、沼で採取したタヌキモなどの根を植えたりした。

ベッコウトンボは、かつては宮城県以南に広く分布していたが、池沼の減少により、本州で現在生息しているのは桶ヶ谷沼と山口県だけという。

加藤理事長は「四、五月はベッコウトンボの羽化や産卵の季節。たくさん卵を産み付けてほしい」と話していた。

米の違い実験で確認

日本たばこ 磐田の中学生学ぶ

主食の米への理解をたおにぎりを試食した深めてもらう講座が二日、研究者に質問した十三日、磐田市東原のりした。

将来は科学者になりたいという豊田南中一年生岡兼利君（一七）は「うるち米ともち米の比重の違いを調べる方法が分かった」などと話していた。

（c）中日新聞社 無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されてい